

石川島記念病院

三島 遥香（ 管理栄養士 / 栄養科 ）

功 績	石川島記念病院の現状を把握し、1円でも給食材料費を下げようと努力し、結果として大きく1食あたり単価を大きく下げること成功した功績
推 薦 者	若林陽盛
推 薦 理 由	1食あたりの給食材料費改善を『自らの目標』として人事考課に記載し、コツコツと積み上げをして結果的に大きく給食材料費単価を抑えることができたのは、他の職員の模範となるだけでなく、安全や経営、そして親身な対応を踏まえたうえで実践できたことは理事長賞に相応しいと考え推薦させていただきます。

内 容

このたび理事長賞の候補者として、入職2年7か月の管理栄養士、三島を推薦いたします。

三島は責任感が強く、地道に一つひとつ業務を遂行できる職員です。入職時は、コロナ専門病棟から回復期病棟へ移行する非常に難しい時期であり、栄養管理においても多くの課題を抱えていました。当時の病院食の単価は470円と高く、予算目標も不明確でした。

三島はこの課題に対し、まず献立作成アプリを使用し、具体的な目標金額を設定しました。また、使用頻度の低い食材を棚卸から除外し、生鮮野菜から冷凍野菜への切替を行うなど、効率的な在庫管理を推進しました。

さらに、大きな改革として約束食事箋の全面的な見直しを行いました。当初は常食1600kcalに対してタンパク質70gの設定であったため、高価な補助食品が必要となっていました。2025年の日本人の食事摂取基準を踏まえ、タンパク質を60gに調整しました。同時に、生野菜や果物を必ず一定量使用するという従来のルールも現場の状況に合わせて柔軟に改訂しました。これらの取り組みにより、補助食品や高価な食材の使用量は大幅に削減され、今年度の1食あたり単価は280円となっており、予算の適正化と栄養バランスの向上を両立させることに成功しました。

特筆すべきは、三島がこれらの改善を栄養課だけでなく、医局や看護部、事務部とも積極的に連携し、OUR TEAMを形成しながら取り組んだことです。結果として、多職種協働の体制を作り上げ、病院経営にも大きく寄与した功績は、理事長賞にふさわしいものであると考え、推薦いたします。